

金曜 ライフ・楽しむ

シニア世代を応援するページです

児童の和太鼓 懸命さにウルウルッ

わたし色

生活情報誌「悠悠と」
編集長・真鍋康利さん



は、その場で正座して静かに待ち、やおら順番に退場します。そこで初めて割れんばかりの拍手が起ります。

春になると、家のすぐそばの小学校から和太鼓の音が聞こえてきます。最初はあまり上手ではありませんが、次第に音がそろい、力強く響くようになっていきます。

札幌市西区の福井野小学校で、毎年6月末か7月初めの土曜日に開かれる「五天山ものがたり」の発表会に向けての練習です。我が子たちが通っていた時以来、懐かしくて20年ぶりに見に行きました。

「五天山ものがたり」は近くにある五天山にちなんだ伝説風の組曲。仲のよいリタ、ネハン、ボダイ、シユギョウ、ホツシンの5人兄弟が、嵐で困るこの地を身をもって守るという内容です。

静かな夜明けに始まり、毎年のように襲ってくる嵐に苦しむ人々の様子、敢然として立ち向かう5兄弟の雄姿、五天山の誕生と人々の称賛、そして豊作を祝う祭り——の5部構成です。

演奏するのは全校児童です。体育館の中央には和太鼓が15個ほど置かれます。真ん中の大太鼓は上級生用でしょうか。

「入場時に拍手はしないで。退場時に大きな拍手を」という注意の後、チャイムを合図に黒の半ズボン、白Tシ

ヤツに豆絞りの子どもたちが、静々と、神妙な顔つきで入場してきました。

指揮者はおらず、皆がそろったところで突然演奏開始。真ん中の大太鼓の周りには大鼓(祭り太鼓と呼びます)は、数人の子どもたちが順に打ちますが、1人が打っている間、残りは後で同じように打つ動作をします。それ以外の子どもたちは、正座で体育館の床を細バチで打ち、風の音や雨の音を表現します。

これが床打ちです。5兄弟ごとのパートに分かれ、もちろん新入生も打ちます。

演奏は30分ほどで、全員が「ヤァー」という掛け声で終了。上気した顔の子どもたち

会場は保護者を始め近隣の老若男女が見に来て大にぎわいでした。蒸し暑く、しかも子どもたちの熱気が伝わったか、保護者の一人が具合を悪くしたようで退場され、辺りが少しさわりました。それでも子どもたちは一心不乱に演奏を続けました。大したものです。

児童が減ったことで「雨の音」が少し小さくなったようですが、それでも感動もの。「あんな小さいのがよくやっているなあ」「みんな一生懸命だなあ」と、クライマックスではウルウルッとしています。久しぶりに見ましたが大満足でした。

皆さんにも見せたいなあ。